Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

テュートリアル課題　リボンは何色?

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-08-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30688

2010年度　　Block. 5

課　題　　No. 3

課題名：リボンは何色？

課題作成者：感染症科　　平井由児

課題シート

2010-B5-3
リボンは何色？

シート1

一流電気メーカーに勤めるユキさんは26歳の女性。
昨年から念願のデザイン企画部に配属になり仕事もプライベートも順調です。

2週間くらい前から咳が出るようになってきました。
近所の医院で感冒として咳止めなどを処方されましたが、一向に改善しません。
長く続く咳を心配した医院の先生は、こう言ってユキさんに大学病院の受診を薦めました。

医院の先生：「長く続く咳の患者さんを診察すると、内科医はいろんなことを考えて心配になるんだよー」
ユキさん：「いろいろといいますと・・・・？？」

先生は言いました・・・・

課題シート

2010-B5-3
リボンは何色？

シート2

ユキさんは、大学病院の呼吸器内科を受診し、問診や診察の後、採血や胸部エックス線撮影を行ないました。
担当の先生は胸部エックス線検査をみながら、こう言いました。

呼吸器内科の先生：「この胸部エックス線写真の所見では左肺を中心に何らかの陰影があります。胸部CTスキャンと気管支鏡検査を行なった方がいいと思います。採血の結果は次回報告しますね。」

ユキさんは思い切って気管支鏡検査を受けることにしました。

呼吸器内科の先生：「こちらでは気管支鏡検査を行なうにあたって肝炎ウイルスや梅毒、HIV抗体を調べることになっています。検査の同意書に加えて、こちらの書類にも御署名を頂けますか？」

ユキさんは「HIV」ときいて驚きました。

ユキさんは友人から借りたCDで聞いたバンドのヴォーカリストがエイズで死んだことを思い出しました。
そういえば、最近産休に入った同僚のSちゃんは、産婦人科でHIVを調べたといっていました。

課題シート

2010-B5-3
リボンは何色？

シート3

数日後、採血と胸部CTスキャンの結果を聞くためにユキさんは再び大学病院を受診しました。
胸部CTスキャンでは胸部エックス線写真と同様に「間質性肺炎」があるとの説明を受けました。
気管支鏡検査は来週行なう予定になっています。

呼吸器内科の先生は、汗ばみながらこう言いました。
呼吸器内科医：「それと・・ユキさんのHIV抗体検査が陽性なんです。HIV抗体の確認検査（ウエスタン・ブロット法：WB）も陽性でした。」

そう言うと、感染症科の医師と専任看護師を紹介されました。

ユキさんは口の中がカラカラで、頭も真っ白になりました。
その後の先生の説明はほとんど耳に入ってきません。

話を遮るようにユキさんは聞きました。

ユキさん：「先生、私ってAIDSなんですか？　それってどんな病気なんですか？　私って死ぬんですか？」

課題シート

2010-B5-3
リボンは何色？

シート4

ユキさんの診断はHIV感染によるP.jiroveci（ニューモシスチス・ジロヴェチー）肺炎*でした。
*学習要綱では「ニューモシスチス肺炎」

画像検査所見で間質性肺炎の所見があり、
気管支鏡で採取した喀痰のニューモシスチスDNA-PCR検査は陽性、βdグルカン 551IU/Lと上昇していました。
このとき、ユキさんのCD4リンパ球数 160/μL , HIV-RNAウイルスPCR 46000copy/μLでした。

ユキさんは入院し、ST合剤の内服を開始しました。治療期間は3週間でした。
この間に頭部MRIなどの画像検査や眼底検査を行ない、特に異常を認めませんでした。
婦人科も受診し、現在は経過観察中です。

肺炎も完治に近づき、気持ちも落ち着いてきたある日、ユキさんはHIVを担当する看護師さんに質問してみました。

ユキさん：「私はなぜHIVに感染したのですか？」

看護師：「母子感染や針を使うドラッグが原因のこともあるけれど、ほとんどはセックスなの。」
「ユキさんはセックスのとき、相手の男性はコンドームを必ずつけていた？」

ユキさんがいままで交際したことがある男性は2人でした。
もちろん、ドラッグなんて興味すらありません。

でもコンドームを100%つけていたかというと・・・・・

課題シート

2010-B5-3
リボンは何色？

シート5

ユキさんには身体障害者手帳（免疫機能障害）が交付され、医療費の経済的負担はほとんどなくなりました。

退院してから1ヶ月ほど経過したところで、抗HIVウイルス療法(HAART）が開始されました。
ユキさんの場合、1日に1回、決められた時間に合計2錠の抗HIVウイルス薬を内服します。

治療を一生涯続けることには不安を感じることもありますが、
ユキさんにとってベッドに入る前の毎晩0時に抗HIVウイルス薬を内服することは生活の一部になりました。

ユキさんは仕事にも復帰し、今までと同じようにフルタイムで働いています。

来月には友人たちとハワイに行く予定です。友人たちには病気のことは話していません。
自分の問題とはいえ、病気のことを伝えるかどうか、悩むこともあります。

退院から9ヶ月ほど経過した12月1日、この日は感染症科の外来受診日でした。
ユキさんのCD4リンパ球数 463/μL、HIV-RNAウイルスPCR 50copy/μL未満と抗HIVウイルス療法(HAART）は充分な効果を認めています。

この日、12月1日は世界エイズデー。
昨年までは気にも留めなかった赤いリボンのマークですが、今のユキさんにとって大きな意味を持つものになりました。